

赤眼のイルザ

白ノ兎

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

俺、花坂誠が気がつくまで死んでいて転生することになった転生先はまさかの緋弾のアリアでTS転生!?俺は能力華麗なるフィッツジェラルドと石仮面や個性豊かな部下達を使ってこの世界を生き残つてやる恋愛無し!ハードフルバトルコメディ!

轉生！

目次

転生！

「花坂誠さん貴方は先程亡くなりました」

「はい？」

俺花坂誠は気がついたら真っ白な空間にいて目の前の女性からそう言われた。

「え？俺死んだの？」

「はい、死にました特に面白みもない死に様でしたよ」

「人の死に様に面白みを求めるなよ!？」

「冗談ですよそんなことどうでもいいですが花坂さん、貴方ライトノベルは読みますか??」

「こいつ俺の死をどうでもいいと言いやがった……まあ読むが……」

「そうですかでは貴方にライトノベルの鉄板、転生の権利を与えますいえーいぱふぱふ」

「棒読みで言われてもな……というか流していたけどあんた誰だよ……」

「私は憂鬱の魔女と覚えてください」

「魔女？女神じゃなくてか？」

「魔女です現在女神がお休みなので私が代わりに死者の魂を送っていただきますはい」

「そうなのか？魔女が死者の魂を送るって聞いた事無いんだが……」

「まあ、細かい事は気にしないでくださいよ貴方は黙って頷くだけでいいんですから」

憂鬱の魔女は薄ら笑みを浮かべながら有無を言わせない圧力で言った。

「……わかったがちなみに転生先は選べるのか？」

「出来れば私が選んだ場所にして欲しいですねほら転生特典は奮発しますから」

「わかったで、場所はどこだ？」

「場所は緋弾のアリアの世界です」

「緋弾のアリアか……俺が生き残れるか？」

「その為の特典ですよさあさあ何を選びますか？」

「急かすなよじやあまず能力だ能力は文豪ストレイドツグスから華麗なるフィッツジェラルド」

「ほう？珍しいのを選びますねという事は次は沢山の資産ですか？」

「いや……次は石仮面だ」

「石仮面!?なるほど吸血鬼になって華麗なるフィッツジェラルド使えば凄いことになりますからねー」

憂鬱の魔女はウキウキしながら聞いている。

「次にアンタの分身をくれ」

「私の分身ですか？」

「ああ、アシストの為に欲しい」

「わかりました……はっ！そう言っていやらしい事をする気じゃ!？」

「しねえよ!?!お前みたいなぺったんに誰が欲情するか!」

「しよぼーん酷いです（しくしく）」

「どうかこの短時間でキャラ変わりすぎだろ……」

最初に浮かべていた薄ら笑みは見る影もなくひどーいと泣く魔女がそこにいた。

「まあ、冗談はこれまでにしてあとひとつくらいは特典持っていけませよっ。」

「じゃあ原作開始の217年前に飛ばしてくれ」

「ほう？つまり……」

「ああ、金や実力は自分で手に入れる」

「まあ、いいですけど原作前に死なないでくださいよ?」

「問題ない……と思う」

「そこは言い切りましょうよ……」

「しようがないだろ初めてなんだから」

「はあ……では行ってらっしゃいませ」

「ため息つくな!」

そう言った花坂誠の足元が光り輝き花坂誠の姿は消えてなくなつた。

「ふう……行ったか、では楽しみにしているよ花坂誠くんいや——ラ

インハルト・S・イルザくん」

その場にはそうニヒルに笑みを浮かべた憂鬱の魔女が残された。